

## アセアン物流事情調査 –その6 カンボジアと南部経済回廊–

フォワーディング委員会

### はじめに

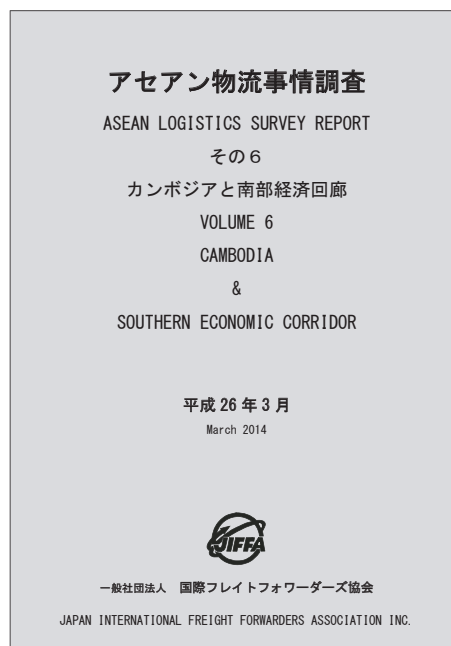
JIFFAフォワーディング委員会では、2015年のASEAN統合を見据え、ASEAN地域の物流事情の調査を複数年に亘るプロジェクトとして決定し、実施してきた。2006年のタイを皮切りに4年連続で調査を重ね、2011年度からは2年に一度ということで今次の調査で6回を数えるに到った。

その間、「チャイナ・プラス・ワン」の流れは、タイを中心とするASEAN地域での製造機能の集積を促し、北米、EU、中国に続く経済成長センターとしてASEANが大いに脚光を浴びることとなったが、最近では、ASEAN経済統合を控え、「タイ・プラス・ワン」として周辺国が注目されるに至っている。

一口に人口6億人弱を擁するASEANとはいうものの、先行しているシンガポール、マレーシアから一昨年事実上の経済開国をなし得たミャンマーまで国柄、経済力は様々かつ政治事情も各々異なり、統合は簡単には進まないであろうが、経済的には着実に前進しているといえる。特に「陸のASEAN」と呼ばれる陸路でのクロスボーダーが可能な諸国においては陸路輸送が着実に増加しており、このクロスボーダー物流が血流となりASEANの経済面での有機的な統合への道筋の循環ポンプとなっているといえよう。

今次の調査では「南部経済回廊」とよばれるベトナムのホーチミンシティからタイのバンコクへつながるルートの一部踏査、そして南部経済回廊の中核をなすカンボジアの物流事情調査を実施した。カンボジアというと過去の負の遺産のイメージが大きく事実ASEANの中でも最後発国の一つに数えられるが、「タイ・プラス・ワン」もしくは「チャイナ・プラス・ワン」として進出済みの日系企業も多く、また、これから進出を検討する企業も多いと聞いており、日系フレートフォワーダーもこの数年拠点を新たに設置している会社が増えている。特に外国資本に非常に開放的な施策をとっており、また、プノンペン周辺のインフラも或る程度整っていることから経済的に即戦力としての実力を有しているとの感を持った。

ここでも嘗て、そして今も中国との関係・影響が強く、



政府開発援助（ODA）でも中国からのものが圧倒している中、韓国もプレゼンスを高めてきているが、日本国政府もJICAを中心に積極的に関与しており、その一つとして首都プノンペン手前のメコン河にかかるネアックルン橋の無償援助による建設が進んでおり2015年春に完成の予定である。現状はメコン河により道路は遮断されフェリーで渡河する必要があり、この架橋により南部経済回廊とアジアハイウェイの一部をなす国道1号線が全て陸路でつながることは両ルートにとり不可欠で大きな意義のあるものである。また、我々が訪問する1週間前には安倍首相が訪問し、種々の政府間援助の強化を約束したばかりでもあった。

本調査報告がJIFFA会員のみならず非会員の物流関係者、また、荷主を含む貿易関係者の同国進出もしくは同国でのビジネス取組の際の一助となれば幸いである。本調査実施に当りご協力を頂いた以下の各社、団体に深く感謝の意を表したい。

#### 訪問先・協力企業

#### 日系企業・団体 (ABC順)

Japan Business Association of Cambodia

Japan External Trade Organization (JETRO) Phnom Penh

# News Up to Date

Japan International Cooperation Agency (JICA) Cambodia Office  
 Marunix (Cambodia) Co., Ltd.  
 Mitsui O.S.K. Lines (Cambodia) Co., Ltd.  
 Mitsui O.S.K.Lines (Vietnam) Ltd.  
 MOL Logistics (Cambodia) Co., Ltd.  
 MOL Logistics (Vietnam) Co., Ltd.  
 Morofuji (Cambodia) Co., Ltd.  
 Nakayama (Cambodia) Co., Ltd.  
 Nidec Electronics (Thailand) Co., Ltd.  
 O.C.S.Cambodia Co., Ltd.  
 Ojitex Harta Packaging (Sihanoukville) Limited.  
 SC Wado Co., Ltd.  
 Sumi (Cambodia) Wiring Systems Co., Ltd.  
 Tokyo Parts Industrial (Cambodia) Co., Ltd.  
 Trancy Logistics (Cambodia) Co., Ltd.  
 Yusen Logistics (Cambodia) Co., Ltd.

## 国際／カンボジア企業・政府団体他 (ABC順)

Bok Seng PPSEZ Dry Port Co., Ltd.  
 Customs and Excise Bavet Office  
 Customs and Excise Branch of Banteay Meanchey  
 Province  
 Customs and Excise Branch of Prey Veng Province  
 King of Cambodia Sihanoukville Autonomous Port, JICA Expert  
 Matalan Phnom Penh QC Office  
 Phnom Penh SEZ Co., Ltd.  
 So Nguon Dry Port, Bavet City  
 So Nguon Dry Port, Phnom Penh  
 Toll Royal Railway, Phnom Penh Dry Port  
 Trans Star Freight PTE., Ltd.

一般社団法人

国際フレイトフォワーダーズ協会  
 フォワーディング委員会

## 目次

はじめに  
 出張マップ  
 本調査の目的

## 第Ⅰ章 カンボジアの概況

1. カンボジアの地理
2. カンボジアの経済概況
  - (1) 経済規模・成長率の動向
  - (2) 金融・為替等の動向
  - (3) 人口・労働
3. カンボジアの貿易
  - (1) 輸出入金額
  - (2) 輸出入品目
  - (3) 相手国
  - (4) 一般特惠関税制度 (GSP)
  - (5) 対日貿易の状況
4. カンボジアの投資環境
  - (1) 外資規制および奨励措置
  - (2) 税制
  - (3) 日系企業の進出状況
5. 経済特区 (SEZ : Special Economic Zone)
  - (1) プノンベンエリアの経済特区
  - (2) カンボジア・ベトナム国境エリア  
(バベット地区)の経済特区
  - (3) 湾岸エリアの経済特区
  - (4) タイ・カンボジア国境エリア  
(ポイベト・コッコンの)経済特区

## 第Ⅱ章 港湾事情

1. カンボジアの港湾概況
  - (1) 概況
  - (2) コンテナ貨物の取扱量と国際港としての位置付け
2. シアヌークビル港
  - (1) シアヌークビル港の概況
  - (2) シアヌークビル港へのアクセス
  - (3) 航路
  - (4) 貨物取扱量および品目
  - (5) 今後の開発計画
  - (6) 課題
3. プノンベン新港
  - (1) プノンベン新港の概要

# News Up to Date

- (2) 航路
  - (3) 貨物取扱いの状況
  - (4) 今後の開発計画
  - (5) 課題
4. シアヌークビル港とプノンペン新港の比較
- (1) 航路の比較
  - (2) 陸路
  - (3) 日系企業の利用状況

## 第Ⅲ章 輸送インフラ事情

1. 道路
- (1) カンボジア国内の道路概況
  - (2) その他、道路輸送に関する環境
2. 鉄道事情
- (1) 鉄道事情の概況
  - (2) 既存路線（南線・北線）
  - (3) その他路線の計画
  - (4) Toll Royal Railway Phnom Penh Dry Port
3. 航空事情
- (1) 航空の概要
  - (2) プノンペン国際空港

## 第Ⅳ章 フォワーダー・通関事情

1. 物流に関するライセンス
2. 通関事情
- (1) 税関の位置づけと関連省庁
  - (2) 輸出入関連法規と輸出入規制
  - (3) 輸出入関税とその適用
  - (4) カンボジアの通関情報システム
  - (5) 輸出入通関
  - (6) ドライポート
  - (7) 開庁時間
3. その他
- (1) 優良事業者制度
  - (2) 事前教示制度
  - (3) 事後調査制度

## 第Ⅴ章 実走調査結果（南部経済回廊）

1. 実走調査概要
2. 区間別道路状況
- (1) ①ホーチミン～バベット（ベトナム側国境モクバイ）  
～プノンペン間

- (2) シェムリアップ～ポイバト（タイ側アランプラヤテート）  
～バンコク間
3. バベット国境（視察結果）
4. ポイバト国境

## 本調査の目的

カンボジアの日系進出企業は2年ほど前から急増しており、2011年3月時点では50社程度に過ぎなかったが、2013年末には146社を数えるまでに至っている。しかも、首都プノンペンだけでなく、ベトナム国境、タイ国境、シアヌークビル港地域と、立地場所が多様であり、かつ縫製業に加えて自動車・電子部品製造などへ産業の裾野が広がりつつある。

JIFFA会員店社のカンボジアへの進出も2011年以降、増加傾向にあり、タイの洪水や政情不安を受けて、今後ますます「タイ・プラス・ワン」としての参入増が見込まれているところである。このような状況から、今般のカンボジア物流調査は誠に時宜を得たものとなったわけであるが、同国における港湾・物流事情のみならず、タイやベトナムのマザー工場と同国の二次製造拠点を結ぶクロスボーダー・ルートである南部経済回廊を調査することは必須であったといつてよい。

本報告書では、第Ⅰ章「カンボジアの概況」でカンボジアの貿易・投資環境・経済特区を概説した後、第Ⅱ章「港湾事情」でプノンペン港・シアヌークビル港について述べ、第Ⅲ章「輸送インフラ事情」では道路・鉄道・航空輸送を解説した。さらに第Ⅳ章「フォワーダー・通関事情」において通関・保税を取り上げ、最後に第Ⅴ章「実走調査結果（南部経済回廊）」で計測データを示しつつ調査結果を報告する構成となった。

なお、2010年3月に発刊された「アセアン物流事情調査 その4 シンガポール・マレーシア、シンガポールを巡るクロスボーダー輸送、南部回廊」に、JIFFA総務委員会の主催した物流研修に依拠した調査内容が概略報告されているが、今回は時間をかけて調査内容を掘り下げるとともに、進展著しい現地事情の情報更新を主目的としたことは論を待たない。

# News Up to Date

## 出張調査マップ

今回の調査は、ベトナムのホーチミンから南部経済回廊（ホーチミン～モクバイ／バベット国境～プノンペン間、シエムリアップ～バンコク間）およびプノンペン～シアヌークビルの実走調査と日系企業が多く進出してい

る経済特区（プノンペンSEZ、タイセンSEZ、マンハッタンSEZ、シアヌークビル港SEZ、ポイペトSEZ）を中心に視察を行った。

また、カンボジア最大のコンテナ港湾であるシアヌークビル港、2013年1月から稼働したプノンペン新港を訪問、視察した。



出所：Google Map より作成。

調査期間	平成25年11月24日（日）～12月3日（火）
訪問ルート	<p><b>【訪問都市】</b>                  (ベトナム) ホーチミン                  (カンボジア) バベット、プノンペン、シアヌークビル                  (タイ) アランプラヤテート</p> <p><b>【港湾】</b>                  シアヌークビル港、プノンペン旧港、プノンペン新港</p> <p><b>【実走調査】</b>                  ①ホーチミン→モクバイ・バベット国境→プノンペン                  ②プノンペン→シアヌークビル→プノンペン                  ③シエムリアップ→ポイペト・アランプラヤテート国境～バンコク</p>